

基本目標	① 高齢者が活躍できる地域づくりの推進	P35
	(1)社会参加の促進	
	高齢者がはつらつと生きがいのある生活を送るためには、長い人生の中で培われた知識や技能が日常生活や地域社会で発揮でき、社会の重要な構成員として活躍できるような社会づくりが必要です。 このため、高齢者の働く意欲に応じた就労の場を確保するとともに、地域活動への参加を促進しながら、高齢者の活躍の場を広げることが重要です。また、そのためにも若いうちから地域活動に関心を持ち、準備を進めていただけるよう啓発を進める必要があります。 高齢者のみならず、すべての市民がともに支え合い力を発揮し、活躍できる地域共生社会の実現を目指します。	

資料 5

施策	1)老人クラブの活性化					P35					
現状と課題（現行計画）					令和8年度時点の現状と問題点						
生きがいを持ちながら住み慣れた地域で生活することは、高齢者にとって最も大切な目標の一つです。老人クラブは、高齢者の生きがい・健康づくり活動を促進する組織として重要な位置を占めていることから、高齢者の更なる社会参加を促進するため、老人クラブ連合会及び単位老人クラブに補助金を交付しています。 一方で、コロナ禍で活動自体が減少し、それに比例するように会員数も減少しています。その後、休止又は廃止状態となっているクラブもあり、老人クラブ自体の活動も減少しています。今後、高齢者人口は減少に転じていくため更なる会員数の減少が見込まれます。高齢者の社会活動を促進するためにも老人クラブの存続は必要不可欠であり、今後も引き続き、老人クラブの活動内容や活動報告について広報等を活用しながら情報を発信し、老人クラブの存続に向けて活動を支援します。					コロナ禍の影響で活動自体が減少し、それに比例するように会員数も減少しました。その後、休止又は廃止状態となっているクラブもあり、老人クラブ連合会自体の活動も減少しています。今後は、広報活動にも力を入れ、老人クラブの活動内容や活動報告について市報等を利用しながら情報を発信し、老人クラブの存続に向けて活動を支援します。						
具体的な取組		内容			事業評価	今後の方針	継続の場合	その理由と次期計画記載のポイント		担当課	
老人クラブ育成事業		・高齢者の更なる社会参加促進のため、単位老人クラブ及び老人クラブ連合会へ助成を行い、活動支援をします。現在、会員数が減少傾向にあります。集いの場や訪問による声かけ、広報等で周知しながら会員の確保に努めていきます。 ・今後も引き続き高齢者の健康保持と生きがいづくりに向けて支援を行い、クラブの活性化につなげていきます。			2 想定通りの進捗	1 継続	3 現状維持	高齢者の社会活動を促進するためにも老人クラブの存続は必要不可欠です。今後、高齢者人口は減少に転じていくため、会員数及びクラブ数も減少する見込みとなりますが、引き続き支援を継続します。		福祉課 （高齢福祉班）	
成果指標		令和3年度実績 （2021年度）	令和4年度実績 （2022年度）	令和5年度実績 （2023年度）	令和6年度実績 （2024年度）	令和7年度実績 （2025年度）	令和8年度目標 （2026年度）	令和9年度目標 （2027年度）	令和10年度目標 （2028年度）	令和11年度目標 （2029年度）	担当課
＜老人クラブ団体数・会員数＞ 団体数（クラブ）		29	28	28	23	23	22	22	21	20	福祉課 （高齢福祉班）
＜老人クラブ団体数・会員数＞ 会員数（人）		919	857	810	703	658	606	550	500	450	福祉課 （高齢福祉班）

施策		2)高齢者の活動の場づくり					P36				
現状と課題（現行計画）					令和8年度時点の現状と問題点						
コロナ禍で活動自体が減少し、高齢者の活動の場が縮小傾向になっていましたが、令和5年5月に5類感染症に移行したことにより、高齢者の活動がコロナ以前に戻ることが期待されます。一方で感染リスクは引き続きあることから、各公民館での高齢者のスマホ教室などを通じて、ICT※を活用した高齢者が集える場づくりの提供及び機会を増やしていきます。					コロナ禍の影響で活動自体が減少し、高齢者の活動の場が縮小傾向になっている。今後は、各公民館での高齢者のスマホ教室などを通じて、高齢者が集える場づくりの提供及び機会を増やす必要がある。						
具体的な取組		内容			事業評価	今後の方針	継続の場合	その理由と次期計画記載のポイント		担当課	
地域住民グループ支援事業		・各地区の集会所等で自主的に運営しているサロンや介護予防を目的として結成された自主グループに補助金を交付します。活動の継続が困難なクラブには老人クラブ等の住民団体と連携し、支援を続けていきます。 ・各公民館において、ICT を活喫しながら高齢者の集える場を提供します。			2 想定通りの進捗	1 継続	3 現状維持	令和8年度に介護予防活動に重点を置いた補助金交付要綱の見直しを行い、介護予防を目的とした体操・ウォーキング等を取り入れた活動をする自主グループに対して補助金を交付し、支援を継続している。		福祉課 （高齢福祉班）	
成果指標		令和3年度実績 （2021年度）	令和4年度実績 （2022年度）	令和5年度実績 （2023年度）	令和6年度実績 （2024年度）	令和7年度実績 （2025年度）	令和8年度目標 （2026年度）	令和9年度目標 （2027年度）	令和10年度目標 （2028年度）	令和11年度目標 （2029年度）	担当課
＜地域住民グループ支援事業＞ 支援事業数(クラブ)		101	92	95	97	91	90	90	90	90	福祉課 （高齢福祉班）

施策		3)就労の促進		P37	
現状と課題（現行計画）			令和8年度時点の現状と問題点		
全国的に労働人口が減少しており、高齢者の持つ知識と経験の活用が必要とされる中、地域を支えるシルバー人材センターの存在や役割は非常に重要です。 シルバー人材センターの会員数は年々減少しており、要因として職場における定年が延長したことにより、60 代前半の新規会員が減少していること、また、コロナ禍により会員やその家族が外部との接触を極力控える傾向にあったことなどがあげられます。 引き続き、シルバー人材センターの役割や事業内容の周知を図りながら、会員の確保に努めていく必要があります。また、シルバー人材センターも含め、働く意欲のある高齢者に対して、就労による社会参加促進のための支援の仕組みを検討する必要があります。 就労的活動支援コーディネーター※については、国や県、他自治体の動向をみながら、企業ニーズについて把握する等調査を行い、どのような活動を行うべきか検討していく必要があります。			シルバー人材センターの会員数が年々減少しています。会員減少要因の一つとして、コロナ禍により会員やその家族が外部との接触を極力控える傾向にあることが考えられます。コロナ禍において、草刈り等の受注件数は例年と比較しても横ばいであったため、会員数の減少については、定年の延長により、60代前半の新規会員数が減少傾向にあることも一因と考えられます。 会員減少により、地域ニーズに十分対応できなくなるおそれがあります。また、高齢者の知識や経験を地域で活かす機会が減少し、社会参加や生きがいづくりの場が縮小していきます。□ また、就労的活動支援においては、高齢者の就労的活動への関心が高まる一方、活動の受け皿やマッチング機会が十分ではなく、参加者・受入れ事業者の確保や制度の周知が課題となっている。□		

具体的な取組		内容			事業評価	今後の方針	継続の場合	その理由と次期計画記載のポイント			担当課
高齢者就業機会確保事業		・シルバー人材センターの育成と円滑な運営を図るため、補助金を交付します。今後も引き続き会員の確保に努め、会員数を確保するだけでなく、すべての会員に就労の機会が提供できるよう関係機関及び事業所等と連携し、ニーズに沿った高齢者の雇傭の場の拡大に努めます。			2 想定通りの進捗	1 継続	3 現状維持	働く意欲のある高齢者への就労支援は、少子高齢化や人口減少が進む本市において大変重要になると考えます。			商工労働課
就労的活動支援コーディネーター配置の検討		・就労的活動の場を提供できる企業等と就労的活動を希望する事業者等とをマッチングし、高齢者の就労による社会参加の促進を図るとともに、地域課題の把握に努めます。 ・就労的活動支援コーディネーターについて、調査を行い、配置に向けた検討を行います。			2 想定通りの進捗	1 継続	3 現状維持	高齢者が「支えられる側」だけでなく「支える側」として地域で活躍することが、介護予防などにつながることを目的として、令和7年度から就労的活動支援コーディネーターを設置し、高齢者が地域で役割を持って活躍できるよう、介護サービス事業所(就労的活動の場)と高齢者をつなぐ支援の準備を行っている。			福祉課 （高齢福祉班）